

場合、心筋梗塞のように動脈硬化性疾患で心臓の一部が働かないような場合などです。高血圧は腎不全に一般的な病態ですし、動脈硬化は透析を受けてみえる患者さんでは普通の人よりとても早くすすみます。弱った心臓は不整脈を出しやすいし、不整脈は心臓の能率を悪くし、不整脈自体の出かたによっては命にかかわることもあります。

透析を終わって帰られるときにはどうにか心臓は普通の負担になっているがあとは水分がたまるばかりということを見ると透析患者さんの心臓はいつも余分に働かされます。少しひねくれた言い方ですが、とても楽な透析は、人によっては心臓自体にはまだつらい場合もあるのかなと思います。またよく言われる適度な運動というのはむづかしい言い回しです。運動も仕事も心臓には負荷がかかります。でも確かに運動もしないと筋肉や骨は弱り、不必要に太り余病もおきます。患者さん一人一人で“適度”は違うと言ってもいいでしょう。

透析と、個々の患者さんによってそれぞれ異なる普段の生活をいかに心地よく安全なものにしていくかということが、透析に従事する医療関係者の課題だと思います。ただ生命を保つためだけという時代は遠い過去のものとなっています。そのためには患者さんに積極的に透析にかかわっていただくことも必要です。ともに工夫して少しでも快適な人生をおくりたいものです。それではまた。

